

とらい あんど る

8号 
1997ねん7がつ

もくじ

特集1「世界の大学・日本の大学」	
間の大陸秘史	2
計画中心主義と行動中心主義	5
中国における大学事情	8
イギリスの大学教育	10
WHY DRINKING ON CAMPUS IS NOT ALLOWED.	13
アラスカの大学事情	14
特集2「人間情報学研究科新棟完成記念」	
人間情報学研究科新棟の利用について	18
新研究科棟の完成を祝して	21
人間情報学研究科の居場所	22
シンポジウム「新時代を拓く『仮想』パラダイム」報告	24
研究紹介・認知情報論講座の巻	27
1996年度工作実習報告	32
1997年度工作実習のお知らせ	34
平成9年度情報文化学部新入生合宿研修開かれる	35
新任教職員の自己紹介	36
堆積岩からさぐる35億年前の地球環境	38
編集後記	40

↑音声の生成と知覚に関係する調音器官と聴覚器官をあしらったデザイン。口の動きの視覚的情報も音声の聞こえに影響を与える。人は環境から得られる情報を総合的に利用して外界を認知している。（作：寺島茂雄〔人間情報学研究科 認知情報論講座M1〕）

特集 1 「世界の大学・日本の大学」
特集 2 「人間情報学研究科新棟完成記念」

出口光一郎氏

(東京大学大学院工学系研究科

工学部計数工学専攻)

「仮想視点による画像の生成とその応用」

出口氏は、仮想技術の画像生成への応用について話した。この中で、出口氏は、仮想的な現実を作り出すためには、物理的な現実の理解が第一義的に重要であることを述べている。

実画像の組をもとに、仮想的な視点から実際に得られるであろう画像を合成する技術と、その応用について述べた。まず、実画像からその画像を得た視点を決定する手法、得られている複数枚の画像から、新しい仮想視点による画像を合成する手法を述べ、これらの手法を応用して、遠隔地の動作と目の前の動作を捉えた画像をそれぞれ仮想視点を考えることで結び付け、ロボットの遠隔操作を行う手法を紹介した。



土佐尚子氏

(エイ・ティ・アール

知能映像通信研究所)

「インタラクティブシネマにおける感情移入と仮想世界の生成」

土佐氏は、芸術家の立場から、仮想技術が人間の創作活動にどのように貢献できるのかということ話をした。

土佐氏がインタラクティブアートの作品で実現しようと試みたものは、映像に触れるという行為と、自分が創造するイメージが頭脳を持ち能動的に自己生成し、自己判断でき対応するシステムである。

土佐氏はその可能性をコンピュータベースのインタラクティブアートに求めているが、従来のパター

ン化した無味乾燥な冷たい装置の様なインタラクティブアートではなく、インタラクティブの機能を生き生きとしたリアルな対応のできる生物と、そのコミュニケーションに置き換えたいと考えている。そして私達にとって身近でコミュニケーションをする生物、「人間」を選び、心理状態や、感情表現、性格付けや知能、行為とコミュニケーションをテクノロジーを用いてどこまでリアルに個性を持って表現できるのかという興味のもとに研究を進めており、これらの研究状況を報告した。

